

コミュニケーション支援サポートブック

基礎編 『コミュニケーションの種類と特徴』



宮城県リハビリテーション支援センター

令和4年11月版

はじめに

本紙では、脳損傷による麻痺や進行性の神経・筋疾患によって、話したり、書いたりといった伝えるコミュニケーションが困難になった方との意思疎通を図るための支援方法についてご紹介します。

コミュニケーションをとるために、どのような方法が良いかは、対象の方の症状・障害の程度・ニーズ、支援者のニーズによっても変化します。また、同じ対象の方でも、状況によっていくつかの方法を使い分けている場合があります。

是非、コミュニケーションが困難となった方との意思疎通の手段を検討する際に、本紙内容を参考にいただければ幸いです。

目次

道具を使わないコミュニケーション	P.1
簡単な道具を使ったコミュニケーション	P.1
電子機器を使ったコミュニケーション	P.3
コミュニケーション支援に関する県の相談窓口	

道具を使わないコミュニケーション

口の動き、まばたき、指さし、ジェスチャーなど対象の方が自分の思いどおりに動かせる身体部位を利用し、支援者（会話パートナー）が読み取ることによって、意思疎通を図ります。

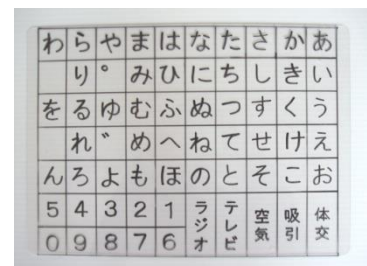
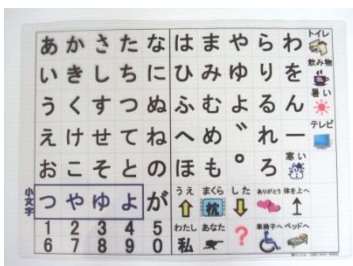
- ◆ 「はい・いいえ」で答えられる質問をする方法
例えば「暑いですか?」、「テレビを見ますか?」などの質問をします。「エアコンを何度にしますか?」、「何の番組を見ますか?」などは「はい・いいえ」で返答できないため不適切です。
- ◆ 口の動きを利用する方法
口の動きをみて何を言っているかを読みとります。
例えば母音「あいうえお」の口の形は比較的容易に読みとれます。
- ◆ 50音読み上げによる方法
支援者が50音を読み上げていき、伝えたい文字のグループ、個々の文字が読み上げられた時に対象の方がYesのサイン（目をつぶるなど）を送ります。



簡単な道具を使ったコミュニケーション

文字・絵・シンボルをボードやノートなどに配置し、指さしや視線などを利用し、支援者が読み取ることによって、意思疎通を図ります。

- ◆ 筆談
文字を書いて意思を伝えます。
- ◆ 文字盤
指や足先、軽い棒を使って文字を指し示します。口にくわえた棒で指し示す場合もあります。
- ◆ 透明文字盤
視線とまばたきを使って文字を選びます。
- ◆ コミュニケーションボード
使用頻度の高い要求などをあらかじめ絵や文字で用意し、選んでもらいます。



透明文字盤について



◆ 事前の確認事項

- 文字を使用するため、ことばを理解する能力がありますか？
- 対象の方は、何らかの合図を出せますか？
- 視力または聴力の状態はどうか？

◆ 利点と注意点

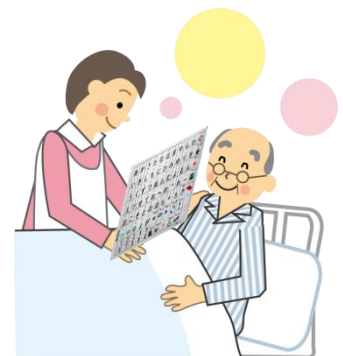
- 身近にある材料で手軽に作成し、すぐに使い始められます。
- 比較的持ち運び便利です。
- 支援者がいないとコミュニケーションが成立しません。
- 使い慣れるまでには、少しだけ練習が必要です。

◆ 使い方（視線）

- 1 対象の方の目から30 cm～60 cmくらいの位置に文字盤を持ちます。
- 2 対象の方：伝えたい言葉の文字をみつめます。
支援者：対象の方と支援者の目が一直線になるように文字盤の位置を変えます。
- 3 支援者：対象者がみつめていると思われる文字を読み上げます。
対象の方：合っていれば、目をつぶるなど YES の合図をし、次の文字をみつめます。
- 4 対象の方：間違っていれば、言いたい文字を見続けます。
支援者：合図がない場合は、文字盤の位置を調節し、正しいと思われる文字を読み上げます。



文字盤については、日本ALS協会新潟支部文字盤入門 (<http://www.jalsa-niigata.com/>) などのホームページをご参照ください。



電子機器を使ったコミュニケーション

パソコンをはじめとした最新の電子技術による機器を使用します。身体のわずかな動きを利用し、スイッチや特別なキーボード、画面へのタッチ、マウス類で操作することによって、意思疎通を図ります。以下では、「携帯用会話補助装置」、「重度障害者用意思伝達装置」、「マウス関連」の3つに分けて代表的な機器を紹介します。

▶ 携帯用会話補助装置

携帯性を重視した機器の特徴から、機器の持ち運びができるので、屋外などにおいても使用することができます。



日常生活用具給付等事業を利用できる場合がありますので、詳しくは市町村の担当窓口にご相談ください。

ペチャラ

文字盤の文字キーを押すことで文章を入力・作成し、発声キーを押すことで読み上げます。別売りのSDメモリーカードを利用して、文章データの確認と印刷をパソコンで行うことができます



▶ 重度障害者用意思伝達装置

スイッチでメッセージを選び意思を伝達できるようになっています。文字盤が自動スキャンし、打ちたい文字の上でスイッチを操作するとその文字が選択されます。



補装具の支給制度を利用できる場合がありますので、詳しくは市町村の担当窓口にご相談ください。

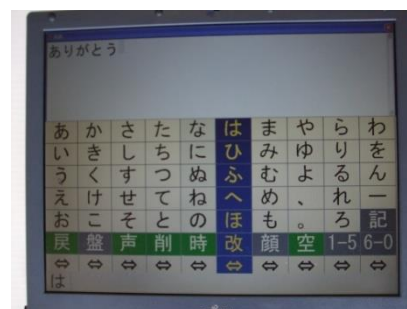
ファイン・チャット

スイッチオートスキャン方式です。文章の保存や印刷機能があります。呼出ブザーや学習リモコン付きです。小型で軽量のため持ち運びも可能です。



伝の心

パソコンの知識がなくても文字入力がしやすい特徴があります。学習リモコン付きで家電製品（DVD やテレビなど）の操作が可能です。メールやLINE を送ることも可能です。視線操作機能も搭載されています。



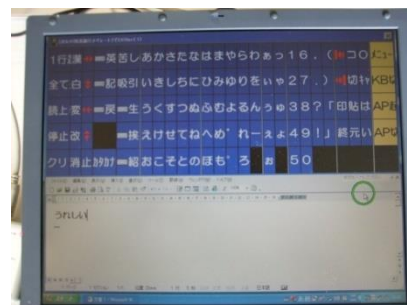
TC スキャン

「Tobi Communicator」ソフトがベースで、少ない操作回数で文字入力することができます。視線入力・スイッチ入力共に高機能で、文字盤等のカスタマイズも簡単にできます。学習リモコン付きで家電製品（DVD やテレビなど）の操作が可能です。メールを送ることも可能です。



オペレートナビ

パソコンをお持ちの方がこのアプリケーションソフトをインストールすることで使用することができます。パソコンの知識がある方に向けています。



➤ マウス関連

パソコンを使用する際に標準のキーボードやマウスが使いにくい場合、代替マウスを使用することで、パソコンの操作が可能です。



日常生活用具給付等事業を利用できる場合がありますので、詳しくは市町村の担当窓口にご相談ください。

らくらくマウス

ダブルクリック、ドラッグなど、マウス操作が難しい方向けの入力補助装置です。ボタンを押すだけなので、握る・動かす力はいりません。

使用方法は普通のマウスと同様です。



トラックボールマウス

ボールを動かしてポインタを移動します。クリックボタンやダブルクリックボタン、ドラッグボタンがあります。



ジョイスティック

ポインタの移動速度を調整することが可能で、ドラッグボタン、クリックボタン、ダブルクリックボタンがあります。

スティックをどの方向へ倒してもポインタは上下、または左右にしか移動しない設定もできます。



ペンマウス

握りやすいペン型のマウスです。ペンのように握り、マウスパッドにペン先をあて動かすことによりマウスと同じ操作ができます。



ワンキーマウス

スイッチを付けるアダプタです。スイッチを押すとポインタの移動やクリックをすることができます。



この他の機器については、当センター作成の「早分かり！身体の不自由な方のためのパソコン操作ガイド」をご覧ください。

対象の方・ご家族へ

- 1 対象の方の「今、必要としていることは何か」また「それをどのくらい満たしてくれそうか」を確認することが大切です。
- 2 「今の状態で、機器の操作方法を習得するのにどの程度の時間がかかるのか」、そして「どのくらいの期間使えるのか」を考える必要があります。
- 3 コミュニケーション機器の性能、大きさ、携帯性・価格（補助があるか）などを比較し検討してください。
- 4 実際に使用している方からの経験や情報を聞いたり、実際に使用し試してください。病状の変化に対して入力のスイッチの変更など、継続的に相談に乗ってくれる人の協力が必要となります。

ーコミュニケーション支援に関する県の相談窓口ー

対象圏域	担当機関	担当班	電話番号
仙南圏域	仙南保健福祉事務所	成人・高齢班	(0224) 53-3120
仙台圏域 (仙台市を除く)	仙台保健福祉事務所	健康づくり支援班	(022) 363-5503
大崎・栗原圏域	北部保健福祉事務所	健康づくり支援班	(0229) 87-8010
石巻・登米圏域	東部保健福祉事務所	健康づくり支援班	(0225) 94-6124
気仙沼圏域	気仙沼保健福祉事務所	成人・高齢班	(0226) 22-6614

ご不明な点などありましたら、まずは当センターにご相談ください。

宮城県リハビリテーション支援センター

リハビリテーション支援班

〒981-1217 宮城県名取市美田園2丁目1番地の4

電話 (022)784-3588

FAX (022)784-3593

ホームページ <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/rehabili/index.html>

Eメール rehabilis@pref.miyagi.lg.jp

